

厳島佳景[いつくしまかけい] 元禄二年(1689)

養生訓で知られる筑前国(現在の福岡県)の生まれ貝原益軒(1630-1714)の
安芸の宮島(厳島)の案内記絵図



厳島佳景[いつくしまかけい]

貝原益軒 元禄二年(1689)

能舞台について

のうぶたい
厳島での演能は、永禄十一年(1568)の観世太夫の来演がその始まりで、その時には「江の中」に社殿の側に仮設の舞台をしつらえての演能と考えられる。

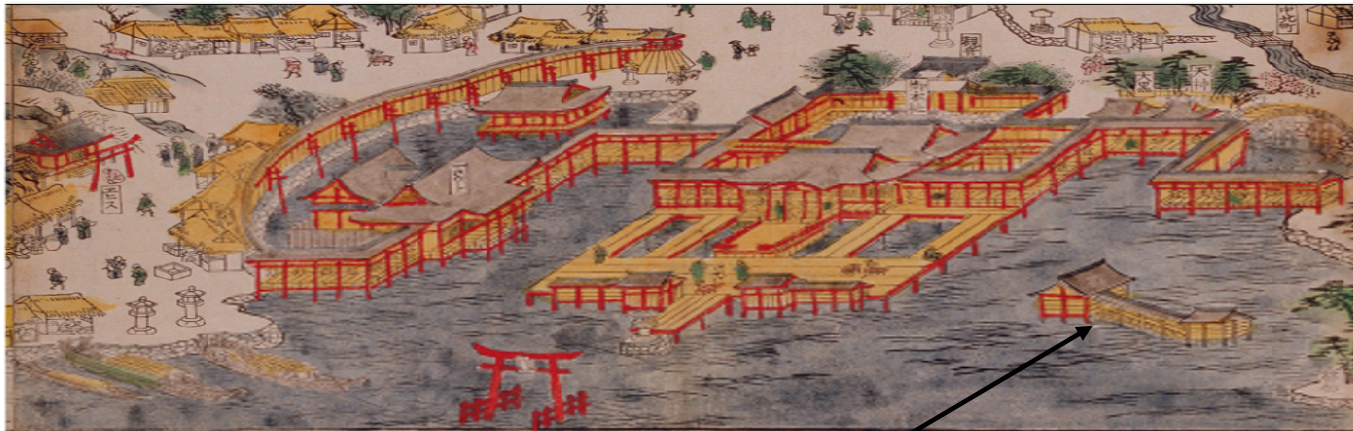
その後慶長十年(1605)広島城主福島正則が能舞台を寄進しており、この時に常設の舞台ができた。

延宝八年(1680)、3代藩主浅野綱晟の長男・浅野綱長によって現在の舞台と橋掛及び楽屋が造営された。現在、国の重要文化財に指定されている5つの能舞台のうち海上にある唯一のものである。

下の図では、いまのように能舞台は楽屋部が回廊につながっていない。



:現在の能舞台



大願寺蔵 厳島絵図

能舞台 (西回廊につながっていない)

両図の相違箇所

○ 能舞台の位置が明らかに違う。



この大願寺蔵 厳島絵図は
元禄十五年(1702)刊 小島常也 「厳島道芝記」より少し前の作か。
(広島大学大学院文学研究科 本多博之准教授の指摘)

巖島佳景[いつくしまかけい]

貝原益軒 元禄二年(1689)

みかさ はま いしのおおとりい
三笠の浜 石大鳥居

今の御笠浜の参道は、1800年代に作られた。

現在、商店街から三笠の浜参道に入った入口に建っている石大鳥居は、明治十年(1877)に計画され29年後の明治39年(1906)に完成した。高さ約10m、山口県大島久賀産の御影石でできている。



この絵図の217年後の建立であるため、石大鳥居は描かれていない。

